

全校読み聞かせ集会

「西陵中学校に通うようになって、本を読むことが好きになりました。」

こんな言葉が飛び交うような学校になればと考え、7 月 11 日 (金) 6 限目に J P I C (一般財団法人出版文化産業振興財団) の読書アドバイザー木村由美子さんをお迎えし、絵本『そっといちどだけ』(なりゆきわかこ 作) の全校読み聞かせ集会を開催しました。

絵本『そっといちどだけ』は、盲導犬ステラと少女あかねの心の交流を盲導犬の視点から描いたお話です。盲導犬としての役目を終え、あかねとの別れのシーンでは、目を真っ赤にしている子ども達は何人もいました。

西陵中学校は、今年度、親子読書(ファミリー読書)の推進に力を入れています。保護者の皆様とお子様が、同じ本を読みあい、気軽に感想等を分かち合う機会が増えることを強く願っています。



「絵本・読書への誘い」ワークシート(生徒感想文)から

[1 年]

- 出会ったら、いつかは、離ればなれになっちゃうことは悲しいし、木村さんが読んでくださった本、感動でした。だれかと離れるということは、本当につらいことだと思うし。別れるってなると、そうとう重いんだなって。でも、いつかそういう日が自分にも来るのかな? って思い、聞いていました。

木村さんの声と BGM。涙が出そうでした。感動したのは、久しぶりの気がします。本当に、本当に「別れ」っていうのは、悲しいなと思いました。

- 犬にも温かみがある、優しさがある、人間と同じ。ということを改めて感じました。そして、犬と人には深い絆が生まれていく。その中には別れもある。犬も人間も苦しい。

私は、犬が大好きです。でも、飼ってはいません。今日の話で、犬の魅力をもう一つ見つけることができました。途中は感動して、涙があふれてきそうでした。ステラのあかねさんへの愛情、申し訳ない気持ちは、ステラにあかねさんへの愛情があるからこそ生まれた気持ちだと思います。ステラの、“あかねさんを、あかねさんを守るためにぼくはいるんだ”という気持ちがとても伝わりました。世界に広がったらいいのに。誰かを守るために私は生きるんだ!

〔2年〕

- ステラとあかねさんの話がとても心にジーンとききました。音楽もついていて、本の絵を見なくても、頭の中で想像することができてよかったです。木村さんの声がとても耳の中にスーッと入ってきて、集中して聞けました。最後にステラとあかねさんが別れた時、とても悲しい気持ちになりました。その時、私がかっていた犬のことを思い出して、さらに悲しくなりました。つつい涙が少し出ました。まわりを見るといろいろな人が感動して泣いていました。
- 盲導犬ステラとあかねさんのお話で、目が見えないから『全てを任せる』ということは、ステラのことを完全に信じないといけない。それをあかねさんはしたから「絆だな」と思った。犬は、自分のことを理解してくれる存在で、通じ合えると感じた。最後にあかねさんがお別れするとき、本当に悲しいだろうと思った。何年もともに毎日を過ごしてきた「家族」とのお別れ、もう会えないだろうということで、考えたら泣けてきた。本当にすごく感動した。私も犬をかっているの、大切に一日一日を過ごそうと思った。
- 私は、犬を飼ってないですけど、小さい時にすごく犬が欲しくて、でも、今思うと、「命は、そう簡単に欲しい、欲しいと言ってはいけないんだな」と思いました。盲導犬のステラとあかねは、ものすごい強い絆でむすばれていたんだなって思いました。あかねは目が不自由でいろんなことは見えなかったと思うけど、盲導犬のステラのことは、本当の目ではないけれど、“心の目”みたいなもので、見れたんだと思います。感動しました。



〔3年〕

- 木村さんの声がすごくよかった。ステラとあかねさんの出会い、思い出、別れが書かれていて、感動した。最後の方に、ステラが盲導犬としての仕事を果たせなくなってしまっても、あかねさんが励ましていた。別れが決まってしまったとき、悲しかったと思う。犬とかを飼ったことがないから、想像だけど、2人の間には、愛があった。本当に感動した。
- 木村さんの声も、BGMも、ゆったりしていて、とても聞きやすかった。時折り、悲しげな感じで語りかけてきて、まるで本を書いた人自身が読んでいるようで、とても悲しかったりもした。体育館の暑さを忘れるほど、聞きいってしまい、とてもよかったと思う。

☆四日市市英語指導員 **ジェニファー先生** ありがとうございました。！

7月4日（金）、四日市市英語指導員 ジェニファー先生の最終授業が行われました。今まで、楽しい英語の授業、ありがとうございました。また、どこかでお会いしましょう。その時は、英語でお話しましょう。

